

大砂土東小学校 学校応援団だより

発行 大砂土東小学校 学校応援団事務局

PTAは元祖「学校応援団」です！

大砂土東小学校 PTA会長 新田 芳万

大砂土東小学校PTAは、会則の第2条で「……家庭と学校と社会における児童の幸福と健全な成長を図ることを目的とする」と定め、昭和23年9月の本会設立以来、65年の長きにわたって子どもたちの学校内外における生活や活動を支え、励まし、見守ってきました。平成に入ってから的事業例で申しますと、校内にあっては松の子まつりや松の子鑑賞会を通じて子どもたちへ遊びや学びの場を提供し、校外にあっては全Pパトロール等を通じて子どもたちの安全確保に努めてきました。ゆえに私は、PTAは元祖「学校応援団」ではなかろうかと密かに自負しています。加えて今年度は、基本活動方針を、一人一人が自分の出来ることをやろう「一致団結して子どもを支えるぞ！」としたことから、“元祖”の感を一層強くしています。

私は、PTAの会議や各委員会の事業等の関係で月に何度も学校に出向きますが、子どもたちと交わす「おはようございます」「こんにちは」のあいさつを何よりの楽しみにしています。子どもたちの笑顔や明るい振る舞いは、PTA活動の最大のエネルギー源だと思っているからです。

これからも、PTAの総力をあげて子どもたちの学習環境・生活環境の整備に努める所存です。



活動年数が2桁のボランティア団体があります

大砂土東小学校 教頭 小野寺 智夫

私は、井上教頭と一週間交替で、始業前に目視による遊具類のチェックやゴミ拾い等のため校内を一巡します。すると必ず、校内を見回ったり、校門近くで立哨したりする防犯ボランティアの皆様にお会いします。多い日には7～8名を数えます。それゆえ、このような週の私の一日は、子どもたちの登校の見守りや校内の安全確保のために早朝から活動される防犯ボランティアの皆様感謝することから始まります。防犯ボランティアチームの発足は平成16年度といたしますから、今年でちょうど10年目を迎えたこととなります、長期にわたる献身的な活動に頭が下がります。

次に、平均して週に2～3日ですが、始業のチャイムが鳴り、日が高くなるにつれて、校舎内で図書ボランティアの皆様とあいさつを交わす回数が増えていきます。50名を越すメンバーが全体での活動のほか、「読み語り」と「掲示・書架」の2グループを編成し、それぞれ年間を通した活動計画を有しているわけですから、顔を合わせる場面が多いのも当然ですね。図書ボランティアの発足は平成12年度と伺っていますので、干支がすでに二回り目に入っています。今後も、子どもたちの読書活動の推進と図書館運営の質的向上のため、一層のご協力をお願いします。



笑顔弾ける世代間交流～学校と社会福祉協議会の連携

学校地域連携コーディネーター 長沼 幸男

私の職務名にもなっている「学校と地域の連携」について、最近の事例を1つ紹介します。

それは、大砂土東地区社会福祉協議会（以下「社協」）主催の「世代間交流事業」の実施に際して、本校が参加児童の募集に協力するとともに、体育館を貸与したというものです。実施日時は8月6日（火）の午前10時から正午までで、参加者は本校児童が65名、社協側が10代後半から70代にわたる18名の皆様でした。

開会行事では、はじめに社協の武藤 勇会長さんから、「見沼区には社協が4つありますが、大砂土東地区がもっとも充実した事業を実施しています。小学生の皆さん！ どうぞ、夏の日思い出づくりとして、社協の皆さんと一緒に、またいろいろな学年の子とも一緒になって元気よく遊んでください」とのごあいさつがありました。続いて本校の高後 仁校長が子どもたちに、「日本には、昔から伝わる楽しい遊びがたくさんあります。社協の皆様方のお手伝いをいただきながら、思いっきり遊ぶ中でいろいろなことを学んでください」と激励しました。

交流のメニューは、「割りばし鉄砲作りと射的」「蝶ネクタイ型のリボンレター作り」「紙風船作り」「お手玉遊び」「ビンゴゲーム」の5つでした。材料は、全て社協がご用意くださいました。

前半は、前4者のコーナーをフロアの4か所に設けて、それぞれに社協のメンバーを3～4名配し、子どもたちがスタンプラリー方式で4つのメニューを順次体験するというものでした。子どもたちはどのメニューにも興味津々で、社協の皆様から作り方を教わったり、互いに競い合ったりしながら、スタンプカードの押印欄を1つずつ埋めていきました。

後半は、全員でビンゴゲームを行いました。ゲームのパーツは勿論全て手作りで、子どもたちも各々、縦・横6マスの方眼紙に1から36までの数字をランダムに書き入れ、自前のビンゴカードを作りました。ゲームリーダーが読み上げる当たり数字は、B6版の白い紙に黒字で描かれており、それらが1つずつ小さく丸められてダンボール箱の中に入っていました。子どもたちは、読み上げられる数字に一喜一憂しながらもゲームに真剣に集中し、ビンゴに達した子はノートなどの景品をいただいて、とてもうれしそうでした。

子どもたちに感想を聞いたところ、「お手玉が意外と難しかった。昔の子は凄いなと思った」（中学年男子）、「割りばし鉄砲、最高！ 射的、30回ぐらいやっちゃいましたー」（高学年女子）などと笑顔で答えてくれました。社協の皆様の子どもたちを慈しむお気持ちと周到なご準備のおかげで、館内全体が弾けるような笑顔に満ち満ちた心温まる世代間交流になりました。



手作りの割りばし鉄砲で射的に挑戦



見本を見ながらリボンレター作り

◆現在活動されている団体のご紹介◆

●防犯ボランティア（代表 武藤 誠 様）

私たち防犯ボランティアは学校の計画に基づき、毎年10月と2月頃に交通指導員及びPTA指導委員と一堂に会して「防犯ボランティア連絡会議」を開いています。会議では、さいたま市防犯ボランティア・リーダーを講師とする研修と、日ごろの活動を踏まえた情報交換を行っています。以下に、去る10月7日（月）の会議の概要を報告します。

研修のテーマは「さいたま市における防犯ボランティア活動の成果と課題」でした。講師からは、主な成果として、①防犯ボランティア活動に対して、自治会をはじめ地域ぐるみでの理解が深まり、学校と地域の距離が縮まってきた②ボランティアによる学校防犯活動の有用性が各方面に波及している。たとえば、市教委と配達・運送・運搬の事業者が『子ども安全協定』を結ぶに至り、現在50社を越える約1万台の車が『私たちは、子どもの安全を見守ります！』と書かれたステッカーを貼って走っている——などが、また課題として、①少なからぬ子どもたちに防犯ボランティアへの依存度が高すぎる傾向が見られるので、活動のあり方に工夫・改善が必要になってきているのではないかと②防犯に対する保護者の関心度・理解度は決して高いとは言えないので、学校と保護者が連携して啓発活動を進めていくべきではないか——などの話がなされました。

情報交換では、多くの方々から発言がありました。私も防犯ボランティアからは、①研修の中で「防犯に対する保護者の関心が低い」旨の指摘があったが、PTAの考え方・取り組み方を伺いたい②子どもたちの通学の列に不審者が近寄ってきたような場合、防犯ボランティアはどう対処すべきか③「さいたま市防犯ボランティア証」は文字が小さくて子どもたちには見にくいので、市教委に改善してもらうことはできるか——などの問題提起をし、活発な協議を行いました。

●大砂土東小チャレンジスクール実行委員会（委員長 角田 政弘 様）

土曜チャレンジスクールでは、毎回必ず体験活動を取り入れています。以下に、今学期外部講師を招いて行った体験活動を2つ紹介します。所要時間は、いずれも1時間です。

【1】カードゲームでお金博士になろう！ ～9月21日（土）

SMBCコンシューマーファイナンス(株)の2名の職員さんから、「カードゲームでお金博士になろう！」についてご指導をいただきました。ゲームの主な流れですが、はじめに子どもたちを5グループに分けて肉や野菜などのカードを与え、グループ間で物々交換を繰り返しながら各グループとも欲しい物をゲットすることで、物々交換時代を体験しました。次に、お米カードを使って欲しい物を手に入れることで、物品貨幣時代を体験しました。最後に、お金の3つの役割、すなわち「交換する役割」「価値を表す役割」「価値を蓄える役割」を学びました。ゲーム終了後、子どもたちに「お金博士認定証」が渡されると、皆大事そうにリュックにしまっていました。

【2】「秋のやすらぎライト」を作ろう ～10月19日（土）

「加藤こどもの造形教室」を主宰する加藤典子さんから、木の実や葉を利用した「秋のやすらぎライト」の作り方を教えていただきました。作り方は、まず直径約12cm・厚さ約1cmの天然木の台座の周縁部に沿ってどんぐりや松ぼっくりを速乾性ボンドで付ける。次に、プラスチックコップの外側にもミジヤイチョウの葉を5～6枚セロテープで貼り、その上から全体を覆うように和紙を巻く。最後に、台座の中央にLED変色ライトを置いてスイッチを入れ、コップをライトにかぶせれば出来上がりです。子どもたちからは、「おうちの机の上に飾って、私の宝物にするの」などの感想が発表されました。

●大砂土東小学校金管バンド保護者会（会長 金子 香 様）

大砂土東小学校には、^{キーファー ムジック バンド}「KIEFER Musik Band」の愛称で親しまれている金管バンドがあります。4～6年の児童44名が放課後のほぼ毎日練習し、学校内外の諸行事で日ごろの練習の成果を発揮しています。この44名の児童の保護者で構成しているのが、大砂土東小学校金管バンド保護者会です。当保護者会様には、本年6月に学校応援団のお仲間に加わっていただきました。

そこで、当保護者会の会長さんに会の目的や活動等についてお尋ねしました。

——貴会の目的を教えてください。

「金管バンド保護者会の目的は、金管バンドの活動を通して情緒豊かで心身ともに健全な児童の育成が図られるよう、活動全般の充実を目指した支援をすることです」

——貴会の役員構成はどのようになっていますか？

「役員は、会長1名のほか、副会長・会計・会計監査及び書記がそれぞれ2名ずついます。会の運営がスムーズに継続するよう、各学年から1名ずつ代表者を選出し、その3名を会長・副会長の任にあてています」

——貴会の規約には、どのような会議が定められていますか？

「会議は、総会と役員会です。総会は、本年度は音楽担当の白木先生と久田先生にご同席をいただき、6月14日（金）に第1音楽室で行いました。役員会は、必要に応じて開いています」

——貴会の主な活動を教えてください。

「私たち保護者会は、金管バンドが出演する演奏会等への協力を第一に考えています。金管バンドは校内行事のみならず、堀崎町自治会運動会（堀崎中央公園）・せせらぎコンサート（鐘塚公園）・さいたま市管楽器連盟演奏発表会（市民会館おおみや）などの校外行事にも出演するため、私たちは子どもたちが活動しやすいように楽器の搬入・搬出や付き添いのお手伝いをしています。また、3月に大砂土東小の体育館で開くスプリング コンサートでは、会場づくりを行っています。

主な活動の第二として、金管バンドに対する金銭的援助があります。僅少なながら毎月会費を集めて楽譜代やユニフォーム代等を賄うとともに、先を見越して楽器購入の積立もしています」

——活動中のご苦労されることはありますか？

「苦労というほどではありませんが、楽器の搬入・搬出のお手伝いでは特に気を遣います。金管楽器も打楽器も高価な上に大変デリケートですから、移動中に損傷することがないように細心の注意を払っています」

——貴会の課題はなんですか？

「①『KIEFER Musik Band だより』の編集に、より多くの保護者の協力が望まれる②金管バンドの部員をもっと増やすために、保護者としてできることは何か？——などがあげられます」

——最後に、金管バンドの子どもたちへメッセージをお願いします。

「塾や習い事などがある中で、毎日のように練習に励んでいる子どもたちに心からエールを送りたいと思います。これからも先生方のご指導をいただき、もっともっと上手になってください」

（取材・編集 学校応援団事務局）



子どもたちの演奏を心静かに見守ります